

歓喜講

かんぎこう

戦災で焼失した本堂再建のため、広く多くの方々に呼びかけ、ご寄進をお願いし、同時にまたそれを奇縁として一人でも多くの方が聖天さまとご縁を結んでいただくという願いのもとに発足した講です。聖天さまのお諭しに従い、お力におすがりしてますますよいご利益をいただけるよう皆様方のご加入をお待ちいたしております。なおお申込みの方にはご芳名入りの歓喜講祈禱札を授与いたします。お気軽にお申し込みください。

【寺務所にて受付中】 講金 3000円

.....【歓喜講特別講演】.....
待乳山親方講演会



歓喜講法要終了後、信徒会館大広間にて元武州山、待乳山親方の講演が行われます。待乳山親方は藤島部屋出身で最高位は西前頭三枚目、現在は年寄として藤島部屋で指導されています。当山の山号でもある待乳山の名跡を襲名された縁のある方です。是非ご来場くださいませ。入場は無料です。

10/7
土曜日
9:00~

【齋食修行の会】 信徒会館大広間にて開催

参加費:500円
定員:50名

僧侶が行う食事作法のもと皆様でお食事をいただきます。受付は本堂にて承っておりますので是非ご参加ください。

朝まいり会

【朝まいり会よりお知らせ】

10月1日~7日 午前8時~8時半
会費:500円也

毎日参加されなくても1週間のうちで、ご都合のよろしい日にご参加ください。継続されている方は表彰され記念品が授与されます。

写経の会

10月8日(日) 午前10時~午後1時
会費:500円也 定員:午前午後共に80名ずつ

お経を一文字一文字丁寧に写すことにより仏様の功德をいただけます。

合同大般若法要

10月25日(水) 午前11時
法要料:5000円也

皆さんとご一緒にお上げする御礼の法要です。

お名前の掲載につきまして

8月より朝まいり会で七日間皆勤された方はいちょうにお名前をお載せいたします。名前の掲載を希望されない方がいらっしやいましたら本堂職員までお声かけください。

要予約 坐禅の会

10月28日(土) 午前9時半~10時半
参加費:500円也

僧侶より説明を受けながら坐禅の修行を体験できます。足の悪い方は椅子でのご参加もできます。事前に寺務所にてご予約ください。

ライブ配信のご案内(配信QRコード)

御縁日法要・合同大般若法要のライブ配信を行っております。



待乳山聖天

いちょう

2023年10月号

令和5年9月20日発行/No.370

発行所: 待乳山 本龍院

〒111-0032 東京都台東区浅草7-4-1

☎ 03-3874-2030

「聖天様とお香」

本龍院執事

深谷昌広



唐の時代、中国に密教を広めた不空三蔵の弟子のひとりに含光(がんこう)様という方がおります。この含光様は聖天様についての解説をいくつも残しており、その中の一つにこう書いてあります。「聖天様の鼻は象に似て極めて長く、それゆえに香りを愛す」

鎌倉時代の天台宗の仏教百科事典ともいえる『阿婆縛抄』にも歓喜天の項目でお香について「含光軌にいう。白膠、薰陸等を焼く」とこの含光様の説を上げています。さらに「使咒法経にいう。白膠香を焼く。迦那鉢底経にいう。安悉香、白膠、沈水香等。義浄本にいう。もし名香無くは、青水香並びに沈水香、安悉香等を焼く」とあります。これは『佛説金色迦那鉢底陀羅尼經』で金色の聖天様が仏様に向かって「…壇上で安悉香、白膠、沈水香等を焼き…」と話しています。また『權現金色迦那婆底九目天法』に「まずこの作法を行うと者は…名香を焼なさい。もし名香がなければ青木並びに沈水香室等を焼なさい」とあります。

ところが使咒法経には「白膠香」の記述はありません。しかし大使咒法経に「并焼白膠香薰陸等安於壇中」とありますので、こちらのことかもしれません。

白膠、薰陸、安悉香、白膠、沈水香はいずれも木の樹液が固まったお香です。特に当山でも使用する沈香(沈水香)はその最高品を伽羅と呼び、とても高価です。

これらのお香は、香道においても原点ともいえるもので、白檀・零陵・甘松・蘇合・鷄舌・鬱金ともに十種香(十炷)香といわれています。首楞嚴經には「…仏様は阿南尊者に告げて曰く、…栴檀(白檀)、沈水、蘇合、薰陸、鬱金、白膠、青木(青水)、零陵、甘松、及雞舌香…」と、この10種のお香が出てきますのでこれが出典でしょうか。

待乳山では浴油祈禱や法要で最高級のお香を使用しています。特に浴油祈禱で使う沈香は高価でその上値上がりも続いたため、先日私が住職にお香のランクを落としてはいかがかと、提案しました。住職は「聖天様には一番良いものを使う。そうすれば必ずご信者にご利益が出る。そんな小さな経費など問題ではない。」と一蹴され、私自身の考えの小ささに恐縮したものです。

月間行事



皆様からのご質問、お知りになりたいことを受け付けております。
ご意見やご質問は ityou@matsuchiyama.jp までメールをお送りください。



「聖天宮」の由来



本龍院の本堂の入り口の頭上には「聖天宮」と書かれた神社を思わせる扁額があります。お寺なのに「宮」ということで混乱してしまうかもしれませんが、その由来は何なのでしょう。日本では奈良時代から神さまと仏さまを調和させ、同一視する思想である神仏習合という考えがあり、仏教と神道は共存して発展してきました。

神仏習合思想に基づき、神社に附属して建てた仏教寺院や仏堂を別当寺（神宮寺、宮寺とも）といいます。神社を管理するために置かれた寺のことです。別当とは社僧の長のことで他に本職があり兼ねて別にその任に当たるという意味です。神前読経など神社の祭祀を仏式で行いました。

明治時代になると神道を国教とするために、政府により神仏分離令が発せられ、現在にいたるまでお寺と神社は区別されるようになりました。しかし神仏習合の期間があまりにも長かったため、お寺と神社の区別がはっきりとしない場所もあるそうです。本龍院の「聖天宮」と書かれた扁額もその名残といえましょう。

筆者の自坊も赤城山(せきじょうざん)という山号で、資料によると以前は境内に赤城神社があったそうです。他のお寺にも神社との関係が密接に続いている場所もあります。これから寺社に参拝される際には、神仏習合の名残などを探してみても面白いかもしれません。



「お月見の会」のご案内

10月29日(日)16:30 開場／17:00 開演(終了は19:30予定)
参加費:2,000円也

四年ぶりにお月見の会が開催されます。月待法要を執り行った後、信徒会館大広間にて義太夫の竹本弥乃太夫師匠と歌舞伎囃子望月流宗家の望月太左衛門師匠の重要無形文化財お二人による公演が開催されます。また落語家の柳家千寿さんの落語とリズム的なファンクバンドとのコラボレーションである落語ファンクの公演もございます。チケットは寺務所にて2,000円にて販売しております。たくさんのご参加お待ちしております。

「七五三参り」のご案内

法要料 5,000 円也

当山では十月後半から十一月を中心に七五三参りをご予約にて承っております。そもそも七五三とは縁起がいいとされる奇数である三歳、五歳、七歳の年に神仏にお参りして、お子様の無病息災を祈願し健やかな成長を願うもので、一般に女の子が三歳と七歳、男の子は五歳(地域によっては男女ともに区別なく三・五・七歳のいずれにも祝うこともあるそうです)にお参りいたします。お参りは一 가족 ごとに本堂内陣で行者様から直々にお加持を授けられます。またお子様のお名前が入りましたお守りとお供物をお授け致します。特に土日の法要はご希望の方が多い場合がございますので、お早めに寺務所にてお申し込みください。



◀ ご報告 ▶

「灯明講」

厳しい暑さが続くなか、大勢の参詣者にご参加いただきました。毎月の講でも内々陣や外陣に多くの灯明が献灯されますが、今回は灯明講ということで灯明を捧げる数が増して多く感じられました。お供物の豆ローソクは約10分ほどで燃え尽きてしまいますのでご自宅で灯し、お経をあげるにはちょうどよい時間でしょう。是非ご利用くださいませ。



「子供会」

小学生のお子様を対象に当院大広間にて子供会を開催しました。

坐禅・お参り作法・齋食、柳家千寿師匠による子供向け落語、またレクリエーションとして革製品を使った小銭入れや手作りキャンドルなど地域ならではの様々なものづくり体験ができました。

本年より新たに齋食を行いました。慣れない正座で音を立てずに食べ、また沢庵とお茶を使った洗鉢(せんぱつ)など日常では体験できないようなことを経験できたでしょう。

はじめの頃は緊張する様子も見られましたが、徐々に打ち解けはじめ、最後のビンゴ大会は大賑わいとなりました。聖天様で修業をして、楽しくあそび夏休みの思い出となったことでしょう。千寿師匠ならびにお手伝い賜りました聖天町会の役員の皆様、ご協力頂きありがとうございました。



「お参り作法説明会」

灯明講法要終了後お参り作法説明会が開催されました。山門に入ってから本堂内、末社のお参りの仕方を実際に現地で説明いたしました。暑い中の多くの方ご参加ありがとうございました。



「朝まいり会正五九法要」

9月7日(水) 朝まいり会の正五九大般若法要を執行いたしました。最近は朝まいり会も新規入会の方が増えて盛り上がってまいりました。朝の清々しい空気の本堂内でのお勤めは心が清らかになります。伝統ある朝まいり会に是非ご入会を検討してみてください。また10月7日には齋食作法が行われます。ご都合の合う方は是非ご参加ください。

